

して各教科10校（450名）を選定した。なお、中学3年の社会・理科の場合、この時期では未学習の部会もあると考えられるので、高等学校の生徒（約400名）を対象に実施した。

エ 第二回予備テスト 12月4日または16日

第一回予備テストの結果から修正補充した問題の統計的な妥当性、および所要時間の過不足を検討するための材料を得るために実施した。なお、標本校の選定は、第一回の予備テストとほぼ同じ規模で行なった。ただし、中学校3年の教科については、今回は当該学年で実施した。

オ 第二回学力検査審議会 1月10日

第二回の予備テストの結果から修正補充した第二次案について検討を加え、本テストの成案を作った。なお、審議会の構成は第一回と同じである。

### (3) 標準化のための調査

#### ① 標本校

標本校の決定にあたっては、地域類型と学校規模によって層化し、比例割り当てによって、無作為抽出を行なった。なお、各出張所管内に標本校がゆきわたるように配慮した。

国語 小学校1年 1,080名

英語 小学校2年 1,030名

英語 中学校1年 1,660名

社会 中学校3年 1,720名

理科 中学校3年 1,670名

#### ② 本テスト 3月1日 中学校 3月2日 小学校

標本校における本調査実施にあたっては、各出張所の指導主事を調査立会人として派遣し、学校側のテスト補助員の協力によって実施した。調査終了と同時に答案を回収し、採点・集計などの処理は研究所が行なった。

#### ③ 標準化

採点の結果から、正答率・標準点を算出することになるが、この表の活用によって、この調査の目的が達成されるわけである。標準点は、標準誤差をなくすために換算Tスコアで示すことにした。検査を実施した学校へは、その結果を通知し、さらに、答案の分析を行なって「診断と指導」の資料を報告書にまとめ、各学校に配布することになっている。

## 6 全国教育所連盟共同研究

——生活指導に関する研究——

### (1) 研究主題

#### ① 全国教育所連盟、「現代の子どもの理解とその指導に関する研究」

この研究主題に迫るために、参加研究所が次の5グループに分かれ、それぞれの角度から研究がすすめられている。

Aグループ 「子どもの労働と労働観・職業観に関する研究」

Bグループ 「子どもの生活とモラルに関する研究」

Cグループ 「子どもの人間関係に関する研究」

Dグループ 「子どもの学習と文化に関する研究」

Eグループ 「子どもの問題行動や非行に関する研究」

本県としては、Dグループに所属し、研究の一翼をになってきたわけである。

#### ② 福島県、「小学校児童の主体性の形成過程」

### (2) 研究の目的

激しい外的諸条件の変ぼうと、その強い影響の中で、児童が主体的に一つ一つの事象を判断し行動することは容易なことではない。

そこで、児童の家庭における学習と余暇生活の実態をとらえ、その問題点を究明して、主体性形成の一助にしようとするものである。

すなわち、これらの実態や問題点を明らかにしながら、学習面では、「予習の課題」による家庭学習を基礎にして、個別に学習したり、フィードバックしたりすることによって主体的な学習態度を形成しようとするものである。また、生活面では、児童に自分の余暇生活の内容を反省させ、その調和を考え、充実させることによって、みずから生活を規制し、生活課題を解決できる主体的な生活態度を形成しようとするものである。

### (3) 研究の内容・方法

① 児童の家庭における学習生活の実態や問題点を究明するために

ア 家庭学習の時間と内容

イ 家庭学習に対する興味

ウ 家庭学習の習慣について調査する。

② 児童の家庭における余暇生活の実態や問題点を究明するために。

ア 児童の余暇生活の内容と生活のバランス

イ 児童のテレビ視聴の時間と内容、について調査する。

③ 家庭学習や余暇生活についての父兄の考え方について調査する。

実験群、統制群とも、一週間の継続調査とし、対象を小学校3年～6年においた。ただし、項目・内容によって、選定範囲を考慮した。父兄についても同様である。

### (4) 結果の概略

#### ① 家庭学習の時間

ア 平均時間と余暇の中でしめる割合

イ 平均時間の分布

一日ひとり平均時間は、60分～80分が全学年を通じてもっとも多い。

男女を比較すると、全学年とも、男子に比べて女子の方が学習時間を多くとっている。このことは、20分以下（40分以下でも同じ）に女子が少なく、141分以上に女子が多いことからもうかがうことができる。

高学年にすすむにつれて、学習時間が多くなるのは当然のことであるが、特に5年の女子、6年の女子には、長時間勉強するものが多い。

日曜日になると、20分以下の児童が多くなるのは、今後の問題点になるであろう。しかし、長時間勉強する数も増えているので、授業日に家庭学習をする習慣は、日曜日になっても持続されるものと思われる。

平均時間を成績別にみると、当然のことであるが、成績が「上位→中位→下位」の順に、学